

ひろしま塩作りの はじまり



瀬戸内では、古くより海水を土器で煮詰め塩の結晶を作る製塩が行われていました。この製塩は、海水に浸した海藻(ホンダワラ)と土器を使って、海水を濃縮する方法だったと考えられています。本講演会は瀬戸内塩作りのはじまりについて学び、塩と人とのかわりについて考えることを目的として開催します。



製塩土器 満越遺跡
(尾道市教育委員会蔵)

2024年
10/19 (土)
13:30~16:00

場所：広島大学教育学部L104教室
定員：60人

参加費：無料 主催：広島大学総合博物館



【講演1】 演題「縄文時代の塩作り」
講師 川島 尚宗氏

栃木県生まれ。広島大学総合博物館准教授。
専門は縄文時代の考古学。製塩のほか、集落・社会、
土偶・石棒などの祭祀具についても研究を行っている。



【講演2】 演題「瀬戸内塩作りのはじまり」
講師 古瀬 清秀氏

香川県生まれ。現在、広島大学名誉教授。
専門は考古学。古代における研究を中心に、鉄生産及び
鉄製品、製塩土器の研究も行っている。

申込方法

博物館HPに記載のフォームよりお申込みいただくか、
ハガキにて申し込みください。記入事項は①講演会
名②名前(ふりがな)③住所④電話番号

申込先・問い合わせ先

広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門
〒739-8524 広島県東広島市鏡山1丁目1-1 特高受変電所内
電話：082-424-6198 e-mail：museum@hiroshima-u.ac.jp

参加申込フォーム



広島大学キャンパスマップ

